※令和３年度以前入学生用

学校番号	3032

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ｂ	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	『日本史Ｂ　新訂版』　（実教出版）						
副教材等	『最新日本史図表　五訂版』（第一学習社） 『詳録新日本史史料集成』（第一学習社） 『４ステージ演習ノート日本史B』（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業に集中して、流れを理解すること。
・特に歴史用語の暗記中心の学習をしないこと。
・授業で配布するプリントをしっかりと見直すこと。
・習った範囲の内容の教科書をしっかりと読み、１つの単元ごとに何度も繰り返すことで知識を定着させる。

２　学習の到達目標

・グローバルリーダーとして国際社会で活躍するための素地として、日本で生きる者として、日本国の歴史をしっかりと理解する。
・歴史の大きな流れの中で、時代ごとの特徴を捉え、今日までの変化を理解する。
・最終的に身につけた知識をもとに、大学入学共通テストで高得点をとれるよう歴史的思考力を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日本史の学習を暗記ではなく、歴史的事実や現象に関心をもち、意欲的にそれらを探求する態度を身につける努力をしている。	歴史の事象や歴史の構造に問題を見いだし、分析したり、総合的に考えたり、科学的に思考したりできる。また、それを表現することができる。	日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	グループワーク・発表 学習の振り返り	定期テスト(論述問題含む) レポート課題 グループワーク・発表 学習の振り返り	定期テスト(資料の読み取り) レポート課題 史資料の読み取り 学習の振り返り	定期テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	第一章　文化と国家の形成	1. 日本の旧石器文化 2. 縄文時代の社会と文化 3. 弥生時代の社会と文化 4. 小国の分立から倭国の形成へ 5. 大和政権の形成 6. 倭の五王と大和政権の勢力伸長 7. 氏姓制度と群集墳の出現	○ 	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ 	 ○ ○ 	a:　日本の原始社会に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b:地域に残る遺跡から原始社会について考察するとともに、その成立過程や特徴を適切に表現している。 c:地域に残る遺跡などの原始社会の文化の特色に関する諸資料を収集し、原始社会の様子を調べるための情報を適切に選択している。 d:原始社会がまだ貧しいがゆえに平等な社会構造であったことを理解し、その知識を身に付けている。農耕の開始によって権力者があらわれ、クニができあがってくることを理解し、その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
	第二章　古代国家の確立	1. 飛鳥時代の政治と文化 2. 古代国家の形成 3. 律令の成立と白鳳文化 4. 平城京と律令政治 5. 奈良時代の社会と政治 6. 国家仏教と天平文化 7. 平安初期の政治と文化 8. 摂関政治の確立 9. 国風文化の成立	○ ○ ○ 	 ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ 	a:　古代国家としての奈良や京都、奈良時代や平安時代の文化に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b:古代国家が東アジアの動向と関連して成立したことを考察するとともに、その過程や結果を適切に表現している。 c:古代国家の確立に関する史料を読み、そこから歴史的事実や社会の様子を読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:古代国家が天皇を中心に成り立っていることを理解し、その知識を身に付けている。古代国家と東アジアの関係を理解し、その知識を身に付けている。奈良時代は律令制の時代であったことを理解し、その知識を身に付けている。平安時代は律令制が変質し、荘園を中心とした社会になってきたことを理解し、その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・確認テスト ・定期考査
	第三章　中世社会の成立	1. 中世社会の土地制度 2. 武士団の成立 3. 院政と保元・平治の乱 4. 平氏の繁栄と治承・寿永の乱 5. 鎌倉幕府の成立過程 6. 承久の乱と執権政治 7. 地頭の荘園支配 8. 農工業の発達と流通 9. 蒙古襲来と鎌倉幕府の衰退 10. 鎌倉時代の仏教と文化 11. 北条氏の専制と悪党	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ 	 ○ ○ 	a:　武士の出現や武士の生活や鎌倉時代の出来事に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b:　武士の出現や武家政権の成立について、その文化や特色と関連付けながら考察し、適切に表現している。 c:　中世社会の成立に関する諸資料を収集し、そこから歴史的事実や社会の様子を読み取ったりそれらをまとめたりしている。鎌倉時代の寺社や仏像をみてその社会や文化の特徴を読み取ることができる。 d:　武士が土地の所領関係でむすびついていることを理解し、その知識を身に付けている。荘園などを武士が実力で奪いとり、力を獲得していく過程を理解し、その知識を身に付けている。東アジアの動向が日本の歴史に大きな関わりをもっていることを理解し、その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・確認テスト ・定期考査

※令和３年度以前入学生用

	第四章　中世社会の展開	1. 建武の新政と南北朝の内乱	○				a: 中世社会が二つの勢力にわかれ争っていることや戦国大名の出現に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b: 南北朝の内乱、室町時代、戦国時代のそれぞれの時代について、出来事や文化に着目しながら考察し、適切に表現している。 c: 室町時代の建築物や庭園から、その社会や文化の特徴を読み取ることができる。また全国各地の城跡から戦国時代の社会や文化の特徴に関する情報を読み取ったりそれらをまとめたりしている。 d: 鎌倉幕府が滅亡したあと、全国の武士や悪党が二つにわかれて戦ったことを理解し、その知識を身に付けている。室町幕府と東アジアの関係を理解し、その知識を身に付けている。守護大名の時代から下克上を経て戦国大名が出現してくることを理解し、その知識を身に付けている。村の自治がしだいに成長してくることを理解し、その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・確認テスト ・定期考査
		2. 室町幕府の確立	○					
		3. 室町幕府の東アジアと日本		○		○		
		4. 南北朝時代の文化と北山文化		○	○			
		5. 室町時代の流通経済の発達			○			
		6. 惣村と一揆				○		
		7. 室町時代の衰退と戦国動乱	○					
		8. 戦国時代の政治と社会	○					
		9. 東山文化と地方への波及		○				
後期	第五章　統一政権の成立	1. 大航海時代と日本				○	a: 統一政権の成立にいたる過程、「鎖国」やキリスト教の日本への影響などに関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b: 織田信長や豊臣秀吉による天下統一の過程や、徳川家康の築いた江戸幕府のシステムの特徴について考察する。 c: 織豊政権や徳川時代に関する史料や絵巻などの諸資料を収集し、その社会や文化の特徴を読み取ったりそれらをまとめたりしている。五街道などを調べることにより、この時期に江戸と諸地域の関係がどう形成されていくかを読み取ったりそれらをまとめたりしている。 d: 天下統一の過程が、ヨーロッパからの影響のもとでおこっていることを理解し、その知識を身に付けている。封建社会が百姓から年貢をとることによって成り立っていくことを理解し、その知識を身に付けている。幕藩制度の特徴を理解し、その知識を身に付けている。江戸幕府の貿易の特徴と禁教令の関係を理解し、その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・確認テスト ・定期考査
		2. 織田信長の天下布武	○	○				
		3. 豊臣秀吉の全国統一	○	○				
		4. 豊臣政権の対外政策	○					
		5. 桃山文化	○					
		6. 江戸幕府の成立		○	○			
		7. 幕府と藩の支配体制			○	○		
		8. 鎖国と四つの口	○			○		
		9. 身分制と村・町の支配			○			

※令和３年度以前入学生用

	第六章　幕藩体制の展開	1. 幕府政治の転換	○	○			a:幕藩体制がしだいに動揺していく過程や蘭学・国学の普及、民衆文化の発展などに関心をもち、意欲的に追究しようとしている b: 幕府の改革についてそれぞれの特色をおさえつつ、幕藩体制の矛盾が表面化していく過程について考察し、適切に表現している。 c: 地域に残るお墓、義民伝説や地域にあった寺子屋など江戸時代の民衆の生活に関する諸資料を収集し、その社会や文化の特徴を読み取ったりそれらをまとめたりしている。 d: 幕藩制度が安定するときの特徴を理解し、その知識を身に付けている。幕藩制度の矛盾の出現の理由を理解し、その知識を身に付けている。百姓一揆・打ちこわしの背景を理解し、その知識を身に付けている。幕府の改革の失敗の理由を理解し、その知識を身に付けている。異国船の接近が幕府にもたらした影響を理解し、その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・確認テスト ・定期考査
		2. 産業の発達	○					
		3. 交通と都市の発達				○		
		4. 町人文化と学問の発達	○		○			
		5. 享保の改革と田沼の政治		○				
		6. 商品経済の発達と社会の変化		○				
		7. 蘭学と国学の普及	○					
		8. 寛政の改革と異国船の接近		○		○		
		9. 大塩の乱と天保の改革		○		○		
		10. 民衆文化の発展	○		○			
	第七章　大日本帝国の形成	1. 開国と社会の変動	○		○		a: 開国から幕府の滅亡にいたる過程、新政府の政策に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。欧米の文化・思想が日本の文化に与えた影響、日本を取り巻く国際環境の変化などに関心をもち、意欲的に追究しようとしている b: 江戸幕府が倒れていく過程や新政府がとった政策とその結果について多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 c: 浮世絵や風刺漫画などから明治維新、文明開化、自由民権運動などの様子を読み取ったりそれらをまとめたりしている。 d: 開国が与えた影響を理解し、その知識を身に付けている。討幕運動の特徴を理解し、その知識を身に付けている。新政府の政策の特徴を理解し、その知識を身に付けている。自由民権運動の内容を理解し、その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
		2. 尊王攘夷から倒幕へ		○		○		
		3. 明治維新と新政府の成立	○					
		4. 文明開化と復古	○		○			
		5. 地租改正と富国強兵		○				
		6. アジア外交と国境問題	○					
		7. 民権思想と国会開設運動		○		○		
		8. 私擬憲法と政党の結成				○		
		9. 松方財政と民権運動の激化				○		
		10. 大日本帝国憲法の制定				○		
	第八章　大日本帝国の展開	1. 条約改正と立憲政友会の結成		○			a: 日清、日露戦争とその前後のアジアや欧米諸国との関係の推移、大正デモクラシーや民衆の台頭、第１次世界大戦とその影響などに関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b: 日本の国内事情や当時の国際関係に着目しつつ、日清、日露戦争と第 1 次世界大戦の経過やその結果について考察し、適切に表現している。 c: 風刺漫画や雑誌・新聞などの諸資料を収集し、当時の民衆の姿を読み取ったりそれらをまとめたりしている。 d: 日清・日露戦争のそれぞれの性格と特徴を理解し、その知識を身に付けている。植民地支配の特徴と植民地からの抵抗について理解し、その知識を身に付けている。大正デモクラシーの特徴を理解し、その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
		2. 朝鮮政策と日清戦争	○	○		○		
		3. 日清戦争後の東アジア	○	○				
		4. 日露戦争と朝鮮	○	○		○		
		5. 朝鮮の植民地化	○					
		6. 産業革命と社会問題		○				
		7. 欧米文化と伝統文化の交錯			○			
		8. 大正デモクラシー	○					
		9. 第１次世界大戦	○					
		10. 第１次世界大戦後の世界	○					
		11. 日本資本主義の成長				○		
		12. 米騒動と社会運動			○			
		13. 普通選挙法と治安維持法				○		
		14. 大正デモクラシーと文化			○	○		

※令和３年度以前入学生用

	第九章　十五年戦争と日本・アジア	1. 侵略戦争への序幕 2. 満州事変と「満州国」 3. 日中戦争 4. 第2次世界大戦と日本 5. アジア太平洋戦争 6. 戦時下の文化と国民生活 7. 日本の敗戦	○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ 	 ○ ○ ○ 	 ○ 	a: 第２次世界大戦へいたる経過とその結果、アジア近隣諸国との関係などに関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b:日本国内の政治、経済の状況と世界の動向を関連付けながら、日本のおこなった戦争の性格について考察し、適切に表現している。 c:地域に残る戦争遺跡を訪ねるなどして第２次世界大戦に関する諸資料を収集し、戦争の様子を調べるための情報を適切に選択している。 d:戦争に傾斜していく経過、そして戦争がどのような性格であったかを理解し、その知識を身に付けている。戦時中の日本とアジア諸国の関係を理解し、その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
	第十章　戦後改革と高度経済成長	1. 戦後世界と日本 2. 日本国憲法と民主主義体制 3. 戦後改革の転換 4. 経済復興と再軍備 5. サンフランシスコ平和条約 6. 新日米安全保障条約 7. 高度経済成長と公害 8. ヴェトナム戦争と沖縄 9. 戦後の文化	○ ○ ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○ 	 ○	 ○ ○ ○ ○ 	a: 戦前と異なり戦後は国民が主人公になった時代であることや、戦後の社会の変化の大きさに関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b: 大日本帝国憲法体制と日本国憲法体制の根本的な違い、戦後日本がアメリカとの関連を強めていくことの問題点について考察し、適切に表現している。 c: 新聞や雑誌・漫画から戦前と戦後の変化を読み取ることができる。様々な史料から戦後日本を世界史のなかに位置付けて考察し、その特徴を読み取ったりそれらをまとめたりしている。 d: 戦後は基本的人権の尊重・国民主権・平和主義を基本政策に出発したことを理解し、その知識を身に付けている。戦後世界の動向と日本との関わりについて理解し、その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
	第十一章　現代の世界と日本	1. 低成長への転換から経済大国へ 2. 経済大国日本と国際経済 3. 湾岸戦争後の世界と日本 4. バブル崩壊と政界再編 5. 21世紀の日本社会 6. 21世紀の世界と日本	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ 	 ○ ○	○ ○ ○ ○	a: 経済の発展や国際社会における日本の役割、現代日本のかかえる課題などに関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b: 現代日本のかかえる様々な課題について、多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 c: 年表や新聞、雑誌を活用して現代の日本と世界の関係について調べるための情報を適切に選択している。 d: 戦後の世界と日本の変化の過程を事実にもとづいて理解し、その知識を身に付けている。２１世紀の展望をもつ。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。